

# 平成30年産 はだか麦の栽培しおり (品種名：イチバンボン)

発行：香川県農業協同組合  
監修：香川県

- 排水対策を徹底し収量・品質の向上を図りましょう
- 適期播種・適期防除(赤かび病)・適期収穫に努めましょう
- 種子更新を徹底し、種子伝染性の病害の発生を防止しましょう

## 1. 品種特性と生育の目安

播種期	節間伸長開始期	出穂期	開花期	成熟期
11月14日	3月5日	4月2日	4月9日	5月18日

(香川県農業試験場(綾川町) H23～29年産ドリル播)

## 2. 播種

播種適期	播種量(kg/10a)	
	ドリル播	全面全層播
11月15日～25日	7～8	13～15

・播種の早限は11月10日とする。  
・12月20日を過ぎて播種すると、収量・品質が低下するおそれがあるので注意する。

## 4. 栽培のポイント

- 排水対策**  
播種前対策：ほ場の周囲(ヨケ)と5m間隔に排水溝を設置  
播種後対策：落水口の確保とロータリー幅ごとに深さ15～20cmの排水溝を設置(畦盛板の使用など)
- 土づくり肥料の施用で酸度矯正(適正pH6～6.5を目安とする)**
- 適切な肥培管理**  
適正な施肥量と適期の追肥  
1月に葉の黄化がみられた場合に追肥(6. 肥培管理参照)
- 雑草の体系防除**  
播種前、初期、中期除草剤の体系処理による雑草防除の徹底
- 病害虫の防除**  
赤かび病の適期(開花始めとその7～10日後の2回)防除
- 収穫の適正化**  
適期収穫・雑草種子(カラスノエンドウ・ヤエムグラ)の混入防止

## 3. 排水対策と土入れ作業



播種前の排水溝設置作業



畦立て同時播種作業(逆転耕)



土入れ作業

## 5. 作業の要点

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
<b>排水対策</b> (ほ場の乾田化)	<b>耕起</b> <b>播種</b> 排水溝の設置 (溝あげ)	<b>麦踏み・土入れ</b>	<b>刈取り</b> <b>乾燥調整</b>					
雑草防除(播種前) 種子消毒 雑草防除(初期)	雑草防除(初期)	雑草防除(中)	赤かび病					
(溝あげ) 稲刈後のワラを浅く鋤き込み(3～5cm)排水溝を設ける。	(雑草) 除草剤を散布する。雑草の発生が多い場合は、	(麦踏み) 土入れ(雑草)追肥・土入れ(防除) 追肥後に土入れを行うと効果が高い。排水溝の補修を同時に行う。	(刈取り) 水分が25%以下になった頃でコンバインの刈取適期は穀粒で速やかに収穫する。					
畦盛板による排水溝の事例 (播種直後) 30～35cm 15～20cm	刈取適期の穂							

栽培履歴を必ず記載し、収穫の10日前までに提出しよう

## 6. 肥培管理

<例1>砂質田(水はけの良いほ場)

肥料名	全量	基肥	追肥(2下～3初)	成分		
				窒素	リン酸	カリ
硫酸銨	40			9.8	7.0	8.4
朝日BB488	8			9.8	5.6	5.6
PKセーフエコ488	8			9.8	5.6	5.6
土づくり肥料	60～100	60～100				

1月に葉の黄化が見られる場合、追肥を10kg施用し、残り10kgを2月下旬から3月初旬に施用する。

<例2>粘質田(水はけの悪いほ場)

肥料名	全量	基肥	追肥(2下～3初)	成分		
				窒素	リン酸	カリ
硫酸銨	40			11.2	8.0	9.6
朝日BB488	8			11.2	6.4	6.4
PKセーフエコ488	8			11.2	6.4	6.4
土づくり肥料	60～100	60～100				

1月に葉の黄化が見られる場合、追肥を10kg施用し、残り15kgを2月下旬から3月初旬に施用する。

<例3>基肥一発施肥体系(水はけの良いほ場)

肥料名	全量	基肥	成分		
			窒素	リン酸	カリ
スーパーブレンドLP40	60		8.4	8.4	8.4
低PKスーパーブレンド		60	8.4	4.8	4.8
土づくり肥料	60～100	60～100			

※粘質土壌では使用しない。 ※12月以降の播種では使用しない。

### ▼土づくり肥料の一覧表

肥料名	ケイ酸	苦土	アルカリ分	成分	
				鉄分	マンガン
スーパーケイカル	25.0	4.0	35.0	15～18	0.5～1
ユーキーカル	26.0	4.0	40.0	1～2	0.5～1
苦土石灰	0	14.5	53.0	0	0

※前年にpHの低下による酸性障害がでているほ場には、苦土石灰を100～150kg/10a程度施用する。  
なお、pHを0.5上げるためには、苦土石灰約100kg/10aが必要です。

### ●主要畑地雑草

種名	スズメノテッポウ	スズメノカタビラ	カスノグサ	ヤエムグラ	カラスノエンドウ
草姿					
防除のポイント	初期除草剤による防除	播種前と初期除草剤の体系防除	播種前と初期除草剤の体系防除	中期除草剤による防除	収穫前に必ず抜取

## 7. 防除管理(農業の飛散防止に努めましょう)

### ①種子消毒

病害虫名	薬剤	希釈倍数等	使用時期/回数	注意事項	作業日
裸黒穂病	ベンレート水和剤20	乾燥種子重量の0.5%	播種前/1回	種子1kgに対し5gを粉衣する。	

### ②雑草防除

区分	薬剤	対象雑草名	使用時期/回数	10a当たり使用量	散布方法・注意事項等	作業日
非選抜性除草剤(注意)	ブリグロックスL	一年生雑草	播種前または播種後出芽前/4回以内	600～1,000ml	10a当たり100～150ℓの水に溶き、雑草の茎葉全体に均一にかかるとよい散布する。	
	バスタ液剤	一年生雑草	播種前または播種後出芽前(雑草生育期)/1回	300～500ml	10a当たり100～150ℓの水に溶き、雑草の茎葉全体に均一にかかるとよい散布する。	
	ラウンドアップマックスロード	一年生雑草及び多年生イネ科雑草	耕起前または播種後出芽前(雑草生育期)/3回以内	200～500ml	(通常散布) 10a当たり50～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。(少量散布) 10a当たり25～50ℓの水に溶き、専用ノズル等で散布する。	
	ポクサー※1	一年生雑草	播種後～麦2葉期まで(雑草発生前～発生初期)/2回以内	400～500ml	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量を所定の範囲内で多めに散布する。ノミノスマには効果が劣る。	
初期除草	トレファノサイド粒剤2.5	一年生雑草	播種後～出芽前/2回以内	4～5kg	手まきまたは散粒機等で均一に散布する。抵抗性雑草が問題となっているほ場では使用しない。タネツケ/ナにはやや効果が劣る。	
	トレファノサイド乳剤※1	ツクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く	播種後～発芽前/2回以内	200～300ml	10a当たり100ℓの水に溶き噴霧機等で散布する。抵抗性雑草が問題となっているほ場では使用しない。タネツケ/ナにはやや効果が劣る。	
中期除草※2,3	ハーモニー75DF水和剤	一年生広葉雑草及びスズメノテッポウ	麦3葉期～節間伸長前(スズメノテッポウ5葉期まで)/1回	5～10g	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。器具を使用後、速やかに消石灰500倍液でよく洗浄する。スズメノカタビラ、カラスノエンドウには効果が劣る。	
	アクトノール乳剤	畑地一年生広葉雑草	一年生広葉雑草の発生前、2または3節期(穂ばらみ期まで)/2回以内	100～200ml	10a当たり70～100ℓの水に溶き噴霧機等で散布する。雑草が多く再度散布する場合は1週間以上間隔をあけて使用する。カラスノエンドウ(速くともカラスノエンドウ5葉期まで)に散布する。ヤエムグラは2または3節期まで、一年生広葉雑草は発生前(いずれも葉のばらみ期まで)に散布する。早播きでは12月下旬、11月中旬播きでは11月中旬、11月下旬播きでは11月下旬～2月上旬頃を目安に、雑草の発生状況を鑑みて散布する。イネ科雑草、コシキリには効果が劣る。	

※1初期除草剤のポクサーまたはトレファノサイド乳剤を播種後出芽前に処理しようとする時、すでに雑草が発生している場合は、10a当たり100ℓの水に溶き、非選抜性除草剤をあわせて溶き、噴霧機等で散布する。ただし、麦が出芽している場合は麦も枯れるので注意する。  
※2カラスノエンドウとスズメノテッポウの同時防除には、10a当たり100ℓの水にハーモニー75DF水和剤とアクトノール乳剤を溶き噴霧機等で散布する。  
※3早播きのほ場や初期除草剤の散布が遅れたほ場、初期除草剤散布後に降雨があった場合など、雑草が繁茂している場合は、時機を失しないように、天候を見ながら中期除草剤により雑草防除を行う。

### ③病害虫防除

病害虫名	防除時期	薬剤	希釈倍数等	使用時期/回数	散布方法・注意事項等	作業日
赤かび病	開花始め(1回目防除)	トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	収穫30日前まで/出穂期以降は1回	10a当たり100ℓの水に(66.6～100g)溶き噴霧機等で散布する。	
	1回目防除の7～10日後	ワーキュアフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで/3回以内	10a当たり100ℓの水に(50ml)溶き噴霧機等で散布する。	
アブラムシ類	発生初期	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫21日前まで/3回以内	10a当たり100ℓの水に(50ml)溶き噴霧機等で散布する。	

①②③について記載している薬剤の使用基準は平成29年8月1日現在のものであり、今後変更になる場合があるので、使用する際は薬剤のラベルをよく読んでラベルの記載内容どおりに使用してください。

作成：2017年8月

高品質化を図る!!!

収量と品質の安定化を図る!!!